

1

幸せを感じる力

誰もが幸せに生きていたいと思っている。
それを叶えるのが政治の使命だ。

だが、幸せは誰かが与えてくれるものではない。
自分でつくり上げるものでもない。
幸せとは、感じる力だ。

どんなに豊かでも不幸だと思ふ人もいれば、
貧しくても幸せだと思ふ人もいる。
いま日本人が幸せでないとしたら、
それは幸せを感じる力が弱まっているからだ。

幸せを感じる力はどこから来るのか。

それは自分自身の足でしっかり立ち、
自らの力の一部を誰かのために役立てることで得られる。

人にはそれぞれ天分があり、
必要だから生まれてきている。
意味があるから生きている。
自分の得意技に気づいて、その小さな得意技で、
誰かを笑顔にする。そうすればいくら貧しくても、
充実を感じて幸せな気持ちになれる。

豊かになると物質やお金に目を奪われて
感じる力が弱くなる。

豊かな時代で幸せ感を得るには、



2

誰かのために、将来のために生きること。
「幸せは私が叶えます」という政治ではなく、
自助努力で幸せを感じる手助けをする政治が求められている。

国家も同じである。
自立をしっかり意識して、
国としての天分を活かして、
他国のため、世界のため、みんなのために、
国民が心をひとつにして取り組めば、
国家としての幸せも高まっていく。
日本国がもう一度再生する道はそれしかない。

明治以降、日本は苦勞してきた。

欧米に飲み込まれないように必死だった。
敗戦も迎えた。すべてを失い、また立ち上がった。
強い欧米に追いつこう、より豊かになろうと生きてきた。

世界金融危機以降、
目標だったはずの欧米の制度や考え方は、
行き詰まりを見せている。
いまこそ私たちは足元を見つめ直すべき。
それが日本人のためにも、
世界のためにも重大な意味を持っている。

この本が、自分たちが住んでいる日本という国について、
改めて考えるきっかけになってくれたら幸いである。

